

単元に係る児童の実態

本学級の児童は、家庭科の学習に意欲的である。家庭科を学ぶ意義については、将来の自分の生活や日常生活における技能の習得のために学ぶと考えている児童が多い。調理や裁縫などに関わる回答が多く、住まい方や環境への配慮に関わる回答をした児童は2割程度であった。事前調査「日頃の暑さをしのぐ方法」については、下記の表のとおりである。

| 暑さをしのぐ方法 | (人) |
|-------------|-----|
| エアコンをつける | 20 |
| 扇風機をつける | 18 |
| 冷たい物を食べる・飲む | 13 |
| 窓を開ける | 13 |
| その他 | 9 |

エアコンや扇風機など、冷房機器を使う児童が多く、太陽の熱を遮ることや打ち水など自然を上手に利用する方法について気付いている児童は少ない。家のエアコンの設定温度については平均24.4℃で、最も低い設定温度は18℃であった。「わからない」と答えた児童が5名おり、冷房機器にたよりすぎている、また温度を意識せずに使用している実態がある。

単元のゴール

本単元を通して、冷房機器にたよる生活を見直し、自然の力を効果的に使う方法、快適に過ごせる衣服の着方や手入れ、昔から受け継がれている暑さに対する住まい方や文化などを取り入れ、省エネルギーなど環境に配慮しながら住まい方や衣服の手入れの仕方を工夫することができる。

生活の営みに係る見方・考え方を働かせた学習活動

「健康・快適・安全」の視点

- ・布の通気性や吸水性、被服の色と放射熱吸収率などから、すずしい着方の工夫について考える。
- ・衣服のよごれによる着心地の悪化や汗の吸水性などの性能変化にも着目し、洗濯の目的や効果について考える。

「生活文化の継承・創造」の視点

- ・冷房機器のない時代におけるすずしい住まい方の工夫について調べ、日本の伝統的な生活文化（すだれ、打ち水、風鈴など）が現代でも今後も効果的に利用できることに気付く。

「持続可能な社会の構築」の視点

- ・冷房機器の使い方によっては、CO2排出量や電力使用量を少なくでき、地球温暖化防止につながることを、洗濯においては洗剤量と水の使用量によって水質汚濁の原因になることに気付く、一人一人が環境に配慮して生活を工夫しようとする。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けて

パフォーマンス課題の設定

- ・自分たちの生活の課題から、単元全体の課題設定をし、学習意欲を高める。
- ・学習したことをもとに、「環境、家計にやさしく、夏を快適に過ごそう作戦」を保護者に伝える提案書を作成させることで、単元を学ぶ目的意識をもたせ、今後の生活での実践意欲を高める。

グループでの調べ学習

- ・第2・3時でのグループ学習で、それぞれの工夫について実験や資料などから効果を調べていく。その際、数値で表せるものとそうでないものがあるため、それぞれの工夫のよさを座標軸で整理することで、比較しやすくし、考えを深められるようにする。

単元計画

| 時 | ◎学習課題・問題 | ◆各時間終了後の児童の姿 |
|-----------|---|---|
| 1 (本時) | ◎環境、家計にやさしく、暑い季節を快適に過ごす方法を保護者の方に提案しよう。 【パフォーマンス課題】 | ◆学習の目的意識を持っている。 ◆地球温暖化や光熱費等の視点から自分たちの生活の課題を見出し、冷房機器に頼らずにすずしさを感じられる工夫（作戦）を考えている。 |
| 2 3 | ◎自分たちの考えた作戦の効果を調べ、よりよい工夫を見つけよう。 (窓、カーテン、打ち水、うちわ、すだれなど) | ◆温度の変化や体感から、それぞれの工夫の良さを調べ、すずしい住まい方の工夫について理解し、冷房機器と上手く組み合わせていくと効果的であると気付いている。 |
| 4 | ◎すずしく、快適に過ごせる衣服の着方を考えよう。 | ◆布の通気性や吸水性が着心地に関係していることに気づき、すずしい着方がわかっている。 |
| 5 | ◎すずしく、快適に過ごせる衣服の手入れの仕方を考えよう。 | ◆衣服のよごれの種類やよごれ方がさまざまあり、よごれがあることで吸水性や通気性が低下することに気づき、洗濯の必要性がわかっている。 ◆取扱い絵表示の意味がわかっている。 |
| 6 | ◎洗濯の実習計画を立てよう。 | ◆洗濯には、洗濯物の量に合わせた水量・洗剤使用量の目安があることを理解し、洗濯の手順がわかっている。 |
| 7 | ◎環境、家計にやさしく、洗濯をしよう。 | ◆適切な水量・洗剤量を使い、正しい洗い方・すすぎ方・干し方ができる。 ◆環境・家計への負担を考えながら、水を使っている。 |
| 8 | ◎環境、家計にやさしく、暑い季節を快適に過ごす方法を保護者の方に提案しよう。 【パフォーマンス課題】 | ◆これまで学習したことをもとに、「環境、家計にやさしく、夏を快適に過ごそう作戦」を伝える提案書を作成し、実践しようとしている。 |

授業デザイン (1/8)

前学年の学習の概要

5年「寒い季節を快適に」

- ・あたたかい衣服の着方
布の通気性・保温性、えりや袖口重ね着による含気率
- ・衣服の役割
- ・採光、照明の役割
- ・暖房器具と換気
空気の循環による効果

一人一人を伸ばす
上位層、下位層に向けて

【上位層に向けての手立て】
生活の課題や作戦を考える視点・観点を多くもたせ、思考を広げるようにし、自分の言葉で表現させる。

【下位層に向けての手立て】
グラフや資料を提示し、逆に視点を1つに絞って課題や作戦を立てさせる。

本時の目標 地球温暖化や光熱費等の視点から自分たちの生活の課題を見出し、冷房機器に頼らずに
すずしさを感じられる工夫（作戦）について考える。
(関心・意欲・態度)

6/27 暑い季節を快適に

×暑くてだるい
汗でべたべた
…

⇒

○すずしい
さわやか
さっぱり

地球温暖化

光熱費

環境、家計にやさしく、暑い季節を快適に
過ごす方法を考えてよう。

家の人に提案しよう！

事前調査の結果
(グラフ)

冷房機器、器具をたくさん使っている。

↓

みんなが自由に使い続けると
どうなるだろう？

作戦・窓を開ける（風通し）

- ・カーテンを閉める（日陰を作る）
- ・水をまく
- ・うちわであおぐ
- ・すだれ …

今後の展開

〈期待する児童の姿〉

- ・自分たちの生活の課題を見出し、冷房機器に頼らずにすずしさを感じられる工夫（作戦）を考えようとしている。
- ・学習の目的意識を明確にしている。

〈次時の学習課題〉

- ・それぞれの作戦が、本当に効果があるのか（温度が下がるか・すずしく感じるか）を調べて、よりよい生活の工夫を見つけよう。

| 本時の流れ（授業スタンダード） | 学習活動 | 指導上の留意点 | □評価 |
|--|---|--|---|
| <p>①単元の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「暑い季節を快適に」という単元名の「快適」とはどのような状態かをおさえる。 ・教室の中を閉め切り、扇風機・エアコンを付けていない状態で授業を始める。 ・暑さによる不快感を一時的に体感したうえで、夏をすずしく住まうための生活の工夫を考える本単元の意図を理解させる。 | <p>②自分たちの生活の課題を見つける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前調査から、エアコンや扇風機を使う児童がたくさんいること、今も教室のエアコンや扇風機を使っていることをおさえる。 ・エアコンや扇風機のデメリットについて考える視点として、「みんなが自由に使い続けるとどうなるか」を考えさせる。 ・「みんな」を学校の全教室や深谷小学校の全家庭、日本中、世界…といろいろな捉え方で考えたり、「自由」を稼働時間や設定温度の観点で考えたりできるようにし、思考が深まるようにする。 <p>関さまざまな視点から、自分たちの生活の課題を見つけている。 (ワークシート)</p> | <p>③単元の学習課題を立てる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の発言や資料から、自分たちの冷房機器の使い方が地球温暖化に大きく影響すること、光熱費が高くなることに気付かせる。 ・学習課題の□部分に入るキーワードを考えさせる。 <p>関自分たちの生活や環境・家計面から、自分なりに学習課題を考えようとしている。(発言・態度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の発言から課題設定をする。 ・暑い夏を過ごすのは主に夏休み中であることから、家庭での実践に取り組むために、最終的に保護者への提案書を作成することを伝える。 | <p>④冷房機器を使わずに、すずしさを感じられる工夫（作戦）を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前調査のグラフの「その他」の項目を示し、作戦を考えさせる。 ・児童のこれまでの生活経験だけでなく、冷房機器を使わなくても生活していた昔の日本の生活文化にも広がるように促す。 <p>関生活経験や友達の考え、昔の日本の生活文化などから、すずしさを感じられる工夫を考えている。 (ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その作戦の効果について、次時にグループごとに調査することを伝える。 |